

- ・ 自分の小学校の時と今の小学校では置き換えられない
- ・ 体は幼いが自分は大人っぽい、バランスが悪い
- ・ 人間関係で満たされていない部分がある
- ・ どの子にも起こりうること
- ・ 大人の世界に振り回されてしまい、家の中ですごし難い生活環境
- ・ 学校で子どもから「女を買う」という言葉が出た、情報が多すぎる
- ・ 子どもが背中を見ているということを大人が自覚するべきではないか
- ・ コミュニケーションが取れていれば「何かしたい」と自分で言えれば伝わるが
- ・ 「我慢」ができず学校で出ると少し困るか
- ・ 参加（お祭り等）出来ることに親も参加してコミュニケーションをとると良い
- ・ 低年齢化されているとはいえ自分の子と同じくらいの子が本当に出来るのだろうか
- ・ 子どもではなく親なのよ、親が接したことを子どもが行動する。結局は親

- ・ 命の大切さを伝えていく事
- ・ キレやすい子供に対して（つらい時など）どう対処すればよいのかを伝える
- ・ 大人がどうやって子どもの気持ちを満たすことが出来るか
- ・ 自分の姿勢を正していくこと

つらい時はどうしたら良いか

- ・ 体の痛みがある子はそんな事は考えずにまず健康になりたいと思う。
- ・ 健康な子達がおこりうる。
- ・ 子どもと一緒にいる時間をもって人によって悲しみが違うので
- ・ 話す事によって気持ちを抱え込まない様に聞くことが大切なのでは

伝えていきたいこと

- ・ 子ども自身が今持っているもの（例えば健康とか）の大切さ有難さへの気づき
- ・ つらい時に聞いてやれる親がそばにいること
- ・ 命のこと

## テーマ2

☆親が何を伝えていくか？何をすればよいか

命の大切さ！命の尊厳

- ・ 蟻をつぶして遊んでいる子に大切さを教えていきたい。生き物に対して子供に例えをして（自分だったらどうするとか）話をしていきたい
- ・ 朝玄関で「行ってらっしゃい」の声を掛けてあげたい

- ・ 反抗期の時はうるさい等といわれたが今は握手している
- ・ 必要とされていることが分かっているれば人も大事に出来ると思う
- ・ 子どもに、「あなたは必要だ」という事を伝えていくこと
- ・ ありがとうの言葉を言う

#### ☆生きる力を親が伝える為には何をしたら良いか

- ・ 意欲を持たせるため誉めてあげる。家の中で役に立っている事を恥ずかしがらずに大きさに誉める
- ・ 生きることは食べることだと思うので心をこめて美味しい物を作ってあげる。(美味しい物を食べられる場を作ってあげる)
- ・ 自分の経験を話してあげる (親などが)
- ・ 朝食を工夫して給食とダブらないようにきちんと食べさせる

### グループ 3

#### テーマ 1

- ・ 相手を思いやる気持ち
- ・ 自分が言われて嫌なことを他人に言ってしまう。思いやりは言って伝わるものではない (人に言われたらイヤだが自分は言ってしまう)
- ・ 人を責めずに自分を見直していくこと
- ・ 会話 (友達・親子間) を増やしていく
- ・ 加減を知らない子が多いのである程度のケンカも必要だと思う
- ・ あいさつをきちんとできるように、思いやり
- ・ 色々あってよい (考え方、人) ガーデニングより雑草が良い
- ・ 何でも「何だろう」と興味を持つように育てていく
- ・ どうせやるなら恐がらずに楽しくやっていく
- ・ メールで表現がきつくなることが多いので気をつけるように言ってきた
- ・ 人の立場にたって人の気持ちの分かる人になって欲しい
- ・ 子どもは親の気持ちを考えて言わない事もある
- ・ 子どもの中で思ったことを言える子と言えない子がいる
- ・ 悪意がなくて冗談で言われたことも傷ついてしまうこともある。親に伝えてくる子はまだいいが
- ・ 自分表現できる何かが必要だと思うが毎日の出来ることを見ていると心配
- ・ 親同士が密になると良いかもしれないが親の見えていない所ではわからない
- ・ 小さい子には手加減してあげるといふ発想がなかなかできない。昔はそういった遊びが出来たのに今はなかなかできない
- ・ 他の学年の子供と遊ぶことがなかなか出来ない

- ・ やったり、やられたりといった経験が足りない。縦で遊ぶことが必要
- ・ 学校から帰っても同じクラスの子供としか遊ばない（今のクラスに固執してしまう）
- ・ 子供の時に学ぶ（学ばなくてはならない事）がある
- ・ 危ないことをさせない、という風潮がある 例えばチャンバラごっこ
- ・ 新しい人の出入りが多く老人がすくなく、伝わっていかない地域性があるため、引越しに関してストレスはないが難しい
- ・ 1クラスの所があるので学校を選べると良いかもしれない
- ・ 1クラスのみだと異様な感じがする
- ・ 4クラスあるところもある。和光市は子どもの遊び場がすくない。小さい子は遊べるが高学年になると遊ぶ場（広場）がない。坂が多いので心配
- ・ 豊かなものを子どもに伝えたい
- ・ お年寄りからウルサイといったような苦情が出る所もある

## テーマ2

☆命の大切さを伝えるために親は何をしたら良いか

- ・ 親が手本になる ex.あいさつ、基本的な生活習慣 「おはよう」「行ってらっしゃい」
- ・ 親子でも「ありがとう」「ごめんなさい」を言う
- ・ ペットを飼う、花を育てる（一緒に）のも必要だと思う
- ・ 小さい物にも命がある事を普段から言葉掛けしていく
- ・ 自然の中に放り込む ex.自然の中で命がたくさんある
- ・ 本人が無二の存在である、虫たちも同じ様に大切であるということを伝える
- ・ 身内の死、動物の命などの大切さを知る（話してきた）
- ・ 親が態度で示す、例えば花を育てる、あいさつをするなど、手本になるように勉強して伝えていく
- ・ 昔は身内の死などで命の大切さを伝えられたが今はペットを飼うことも大変なので、今は草花を育てて少しでもその大切さを伝えたい

☆生きる力を身につけるために親はどうしたら良いか

- ・ 自然の中に放り込む、今は何でも出来るので
- ・ ザリガニもとることもできない（かわいそうだから）自然にものが死んでいく事を目の当たりにしていく
- ・ 蟻、蚊、蠅も普通に見られない
- ・ 困難になると挫折してしまう。もう一段登れるようになると良い
- ・ 失敗しても何度もやってくれれば良い
- ・ 手伝い・料理などもやりたいということはやらせる。子供に分担を決めて責任を持たせる。風呂係など 自分がないと皆が困るんだといった実感をもたせる

- ・ 社会を構成していくことの1つとして考える
- ・ 子どもに任せたら親は決して手伝わない。親の忍耐が必要
- ・ 子どもがやりたくないといったら親も料理をしないなどで戦う
- ・ 挫折を知らない子が多いので早いうちに挫折を知ることも大切
- ・ 市民農園を借りてメロンの苗を育てているがメロンの中にかぼちゃがひとつなっている。今、水やりを続けている。野菜が嫌いな子も自分で作った物は食べる

#### グループ4

##### テーマ1 子供たちに伝えていく大事なこと

- ・ ラジオで話 :あるマンションで誰も挨拶をしてくれない  
あいさつは大事→人と人とのつながりが密になる＝温かさや優しさがわかる
- ・ 他人のよい所を見られるような人になって欲しい＝人を好きになれる
- ・ 本音を話せる親・友達
- ・ 生きる力 … 我々大人にも備わっていない勉強していく必要  
→いかに大人が子どもに伝えていくか  
生き方ーコミュニケーション・(あいさつなど) 道徳観
- ・ 歴史の教え方 … 本当の裏にある事なども教えていく  
→親の生き方を伝える (生きてきた生きざま)
- ・ 親が子供に教えていく道徳観 実際に教える?→母親、父親
- ・ 学校 … 自分の特性を生かす 自信を持って自分の役割をはたす
- ・ 父親 … 子どもとの接点が少ない→話す機会がない (道徳観など)
- ・ 男の子は父親に女の子は母親に似て来る
- ・ 母親・大人が子供のレベルになってはいけない
- ・ 倫理観、感謝の気持ちを教えていかななくては……

##### テーマ2

###### ①命の大切さを伝える

- ・ 痛さを知る。話をするコミュニケーション
- ・ 難病の子のテレビより一人の命でなく回りの人がいることを知る
- ・ 病気の野良猫(動物)を看病することで学び取っている
- ・ 自分のこと(試験)より ex.動物の命
- ・ 自分が生きていることへの感謝

###### ②生きる力を伝えるために何をしたら良いか

- ・ 何のために生きるのかを知る→生きる力
- ・ 生活力

- ・ 問題解決力
- ・ 評価する
- ・ 倫理観・道徳観は伝えられない→まず自分が勉強
- ・ なぜ今親が教える自信がないのか→解れば教えられる
- ・ 大人になるに連れて選択枠が広がる中自分で選択できない
- ・ 条件（ルールの範囲内）をつけないでさせる→好きなことが出来る→良い学習
- ・ 皆が楽しむためにはどうするか、1人で生きているわけではない、皆が楽しければ自分も楽しい
- ・ 何にでもチャレンジして欲しい 回りに迷惑を掛けないように（多少は仕方ないが）
- ・ エネルギーを向ける方向を間違えない。大人が誘導する

## グループ5

### テーマ1

#### 命の大切さ

- ・ 相手の立場に立って考える
- ・ 人に助けられて生きている
- ・ 自立して欲しい
- ・ 今回事件があって色々な人と話をした。子供と話をしていなかった
- ・ 子供と向き合って家族と話をした
- ・ 4年生の子供と話をした時どうしてそうなるかわからない。相手の立場になって考えなさい
- ・ 自分が嫌なことをされたらどうか？
- ・ 思いやりが基本であるという前提で注意
- ・ 6年生の女の子が長崎の事件の前にネットで悪口を言った。それについて話し合った
- ・ 男の子なので学校の話をしてしない
- ・ 人の痛みを知らない。手を切ったとき痛みを知らない
- ・ 心の痛みがわからない自分が痛いとも人も痛い
- ・ 自己表現の言葉を知る、自分で考える。怒る事も愛情の1つと考える
- ・ 大人がやり方を教える（声を掛けられた時など断わり方を大人が示す）
- ・ 基本的にこわいおばさんがいない。知らない子どもでもちゃんと声掛けをしてやる。子どもに目を向ける
- ・ 下の子は幼稚園だけど子どもにぶつかっても知らないふりをして通り過ぎる。三つ子の魂百までという事があるがそういうことも大切
- ・ 地域にかかわりをもたないとダメ
- ・ 子どもの顔を知らないので地域に関わると顔を知り声を掛けられる
- ・ 話しなさいといって話すのではなく自分から話をするような空気を作る

- ・ 社会的に物がありすぎる
- ・ 物を大切にしなくなっている。欲しい物が手に入る
- ・ エネルギーを使わないとダメ
- ・ 心の部分で繋がっているけれど言っていることの裏側がわからない
- ・ ずっと言われてきていることが出来ていない。親も毅然とした態度が必要
- ・ 子どもに指示ばかりでちゃんと向いていない
- ・ 子どものことは親の責任。口で言うだけでなく行動を
- ・ 中学生は朝早くから遅くまで話す機会がなくなっている
- ・ 大人の時間と子供の時間が同じ、昔は違っていた

## テーマ2

☆命の大切さを伝えていくには

- ・ 小さい頃からの積み重ね（虫など）
- ・ 体感させていく
- ・ ケンカはやれといってやるものではない（やられたらやり返せというのはどうか？）
- ・ 低学年の時は何かやられた時はすぐに先生に言いに来たけれど大きくなるにつれて自分で解決して行くようになった
- ・ 仲の良い子とケンカがわりと多いように
- ・ やって、ゴメンネと言って、納得がいなくてもいいよと言ってしまう
- ・ 親が心配しなくても年令が上になるにつれて自分たちで解決していく
- ・ 許す許さないは別としてちょっとした事でもわかってくる

☆生きる力を親が伝えていく

- ・ 何でやったのか？子どもを育てる（誉めて育てる）
- ・ 愛されている。自分は大切に思われている、だから相手も大切に思う。
- ・ 言葉に出してやる（言葉に出してやると子供は安心する）
- ・ 子どもの年令によって大切に思っている表現が違う
- ・ お兄ちゃん、お姉ちゃんだからではなく、一人一人をちゃんと見て付き合う
- ・ 子ども一人一人が違うから
- ・ 子育てはいつでもやり直せる（遅いと言うことはない）
- ・ 子どもは常に成長している
- ・ 子どもからお母さんで良かったと言われた時成功したかなと思う
- ・ 許したことで子供を知る

## グループ6

### テーマ1

- ・ 命は1つしかない
- ・ 劳わる気持ち
- ・ 会話キャッチボールができない。親子本当の会話ができる
- ・ 子どもに言われても腹が立つことがある
- ・ 親の無関心もある。聞く時間がない
- ・ 子どもも時間に追われている。下校後、塾
- ・ 子どもとの会話をする時間がない
- ・ 話さないと子どものこともわからない
- ・ 子どもはまだ自分のことしか考えていないが、色々な人がいるということを伝えていきたい
- ・ 人との関わり方、大人も子供も話さずに済む事が多い。時間がどれだけ取れるか、社会に出てからもコミュニケーションのとり方に間違いがないように
- ・ 自分を抑制しないとキレやすくなる。のびのび育つことは大切だが小さい頃から我慢することを教えたい
- ・ 各自テレビ1台の時代→我慢しあうことがない
- ・ やって良いことと悪いことを教える。本当は簡単なこと
- ・ 日常生活の中で、譲り合うことが少ない。小さい頃から教える必要がある
- ・ 親と一緒に子どもを見ていない。
- ・ ここに集まっている方は、よく子どもと話しているほう
- ・ 上の子と下の子の時で親同士の会話の中でよく感じたりそうでない時がある
- ・ 子どもに伝える前に親に伝えることが大切
- ・ 人に迷惑を掛けている認識が親にも子にもない
- ・ ルールや価値観が変わってきている
- ・ 親にルールや価値観を伝えていかないと子どもに伝わらない
- ・ 若い親と言いたくないが暗黙の了解というものがかわってきている。
- ・ 子どもの前に親にそういうこと（人に迷惑を掛けているという認識）を理解してもらいたい
- ・ 言わないと解らないことがある。親も子も人とぶつかること避けている。なるべく穏便に。打たれ弱い。子どものうち幼いうちにぶつかって色々な壁を乗り越えていく。いたわり、優しさが生まれる
- ・ 実践しなければならない
- ・ 失敗することが悪いという認識がある。1回失敗すると這い上がれない
- ・ 受験でもいえることだが、長い人生1度の失敗でも
- ・ 1度失敗すると人生が終わってしまうように感じる。大人の社会も全て順調ということは不可能
- ・ 自分が壁を越える力生きる力を身につける。子どものときこそ気持ちを発散できる。大

人になるほど壁が出来る

- ・ 回り道。無駄も必要
- ・ 人生80年。100年先に幸せがあればよい
- ・ 甘やかすではないが絶対何があっても味方だよ親がいるよというメッセージが伝えられれば
- ・ 子どもが自信がない。存在価値を子ども自身が感じられるように
- ・ 死んじゃうとすぐ言うのは自信がない？
- ・ 小学生には親の子を思う気持ちを伝えやすいが、少し大きくなると難しい
- ・ 失敗時に叱られると、自分は生きていていいのかなあと疑問に思う。親に存在を認めて欲しい。もう一度言って欲しい。対応を親が真剣にしないと子どもには伝わらない。親にテレもあるし直接言いづらい
- ・ 親にテレがあるし、言い難いが逆に言う時期もある

**テーマ2** 大事なことを伝えていくために（命の大切さ）親は何をすればよいか

- ・ 存在価値を子供に伝える方法、あなたがいてくれて嬉しいと口で伝える
- ・ 出産時の話をする
- ・ 生まれた時今ここにいてくれて嬉しいということ伝える
- ・ これからもずっとあなたが大事よと伝える
- ・ 子どもが確認してくるときなど、特に伝える
- ・ あたりまえのようだが、「おはよう」「おやすみなさい」時間がなくても言いたい
- ・ 「ありがとう」親子でお互い言うようにしている
- ・ 感謝の気持ちは口に出して言おうと話している
- ・ 子どもの前で父親の存在を無くすような言い方をしない
- ・ 命の尊厳と言う難しいが小1の子供に小動物の死を機会に命、人の命の大切さを教える
- ・ どんな時も子どもと目をあわせて見て話すようにしている

生きる力 → 家庭で親が何をするか

- ・ 生活できる力→お手伝いからはじめて勉強だけでなく1人で生きていけるための力を
- ・ 家の事をやらせたほうが良い
- ・ 子どもには何でも出来るようになって欲しい
- ・ 小5、2の子ども段階はあるが興味のある事から
- ・ 自分で出来ることを、努めてさせていた。(小学生の頃)中学生になると難しい
- ・ 失敗しても大丈夫という姿勢で親がいれば子どもの力がついてくる。失敗に対して受け止められる親でいること
- ・ 精神的に自立できる力を親が子につけさせる。
- ・ 自立は自分を律する。判断して決める。親がアドバイスしても最後には子ども自身が決められるように



- ・ 失敗を親や他のせいにはしない。自分で決める
- ・ 些細なこと（お小遣い、ジュース1本）を決めることから
- ・ 自分で決めたことには後悔しない
- ・ 後悔してもよい、失敗することで次を考えることが出来る
- ・ その時親も我慢が必要
- ・ 子どもに判断力をつけさせる



## 【グループ討論まとめ (コメント：福島富士子先生)】

### テーマ1の話し合い・発表を受けて

多くのグループから出てきたのは、命の大切さということです。それから、相手の立場に立つ思いやり、自分で考える力を蓄えることを伝えていきたい。それが問題解決していく力につながるということです。

‘体で伝えていくもの’というのが出ています。これはすごくいい言葉だと思ったのですが、体で伝えていくものを伝えたいというのは、どういう背景か、具体的に何か出たでしょうか。‘痛みを知る’というのは、実感として何を知ることなのか、どういうことを言葉ではなしに子ども達に伝えていきたいのか、いろいろ整理していくと、皆さんがどういう感覚でこれをやっていくのか、わかってきます。

‘和光市のことを伝える’というのもなかなかおもしろいですね。

それから信頼という言葉も出てきます。これは親子の信頼、友達の信頼、言葉ではなく体でわかっていくものもあります。

それでは、大切なことを伝えていくために、具体的に何をしていくか、今出てきたことを整理して考えていきたいと思います。

おもしろかったのは、人間はわがままな動物であるということですが、一般的には我慢、わがままだから我慢をすることが大事であったり、それから社会のルールや道徳観をきちんと伝えていったり、人間がわがままなものであるという前提のもとで、だけどみんなで仲良く社会でくらししていくために、我慢や社会のルールを伝えていきたいというお話がありました。

社会の中で、トラブルがあるけれども、その壁を乗り越えていくことが大切。それから感謝の気持ちとして、健康であり、家族がいること、すべてが存在していることへの感謝の心ということが出てきました。

挨拶ということですが、社会的ルールやコミュニケーションに関係してくるし、人との出会いへの感謝の気持ち、温かい気持ちを持つこと、やさしさ、人を好きになっていくこと、これらすべてにつながることで、あいさつは大事なのです。

親の生き方を子どもに伝えていきたいということが男性のグループから出てきたのですが、具体的には、親が当然いろいろな試練を経てきた中で、どういうふうにしんどい乗り越えてきたかということ、今現在平和な家庭の中で伝えていくことが必要であり、それが子どもたちが今後の生きていく上でのヒントになればということです。生きていくことの厳しさも伝えていくことが、生きる力につながっていくということですね。

それから、命の尊厳、命の大切さは何度も出てきていて、大事なキーワードであることがわかります。

‘生きる力’というのは、今の小学校で大変大事なキーワードです。その中のひとつとして、コミュニケーション能力、抽象的なものを具体的に伝えていく手段としての言葉と

いうものがあります。

次に、ここに出てきた大事なことをつたえていくためには、何をするのかということです。ここでは、誰がということが抜けているのですが、家庭の中で、親がというところに焦点を絞ります。

親だけではなく、社会において、学校も地域社会も、みながやっていかななくてはならないことが出てきていますが、今回のグループワークでは、特に焦点を親が何をしたらいいかということに絞って話し合っていたきたいと思います。

その中で、まず命の尊厳、命の大切さを伝えていくために何をしていくかということ、ひとつの大きなテーマにしていただきたいと思います。

#### テーマ2の話し合い・発表を受けて

伝えていきたいことは、まず命の尊厳、命の大切さであることが、グループワークの中から出てきました。自分の命、ほかの人の命、動物の命、小さな命、その大切さを親が伝えていくことの重要性です。

それから、自分の痛みを通して他人の痛みを知る機会を大事にしたいということ。けんかなどいろいろな体験を通して、相手の立場にたって考えることができることが、思いやりを持つことになるということです。その一番の原点に‘無償の愛’があることを、まず親が伝えていかなければいけない。‘あなたは大事な存在である’ということです。それについては、生まれてきたときのことを具体的に話すとか、スキンシップで伝えるとか、お母さんの心を日々伝えていくという話が出てきました。

また、お父さんへの感謝とか、お父さんへの尊敬ということも出てきました。家の中のこまごまとした日常生活になかなか関与できないお父さんですが、外ではがんばって働いている、それがあって家族があるということ子どもたちに伝えていくということです。お母さんたちの話し合いでは、自分のやることばかりが出てきて、お父さんのことははずれてしまうことが多いのですが、これがお母さんたちのグループから出てきたことがすばらしいです。そうした中から信頼関係ややさしさ、温かさの芯ができていく。

では、具体的にどうするかということですが、出かけるときに向かい合って‘いってらっしゃい’ということや、子どもが何かしてくれたときに‘ありがとう’という言葉をおぼれられないことがあげられます。

また、お年寄りとの世代間の交流、これはなかなか家の中では実現できないのですが、地域活動として実現できると思います。それから、ちょっとお姉さんとかお兄さんと接点をもつという世代間の交流が大切です。

それからおもしろいのが、‘母親がほんくらでないこと’。本当にいつも180度頭をいろいろなところに使って、心配りというか、感性をいつも磨いて、リカバーしていくということが出てきています。

次に‘生きる力’を伝えていくということですが、大事になってくるのは、自分で考える力、生活する手段、スキルを家ではどうやって身につけられるかということです。お父さんのグループから、まず、自分が乗り越えてきた道を子どもたちに伝えていくことが出ています。また、人間はわがままな動物であるということを基本に、それぞれが我慢をしなければならない、社会のルールや道徳観を持っていくことが大事であるということ。そのために社会のルールを覚えるということもひとつです。

お父さんたちから出てきたのは、試練を乗り越える力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神。男と女が違うということではないのですが、基本的に持っている役割がやはり違うのかなあと思います。

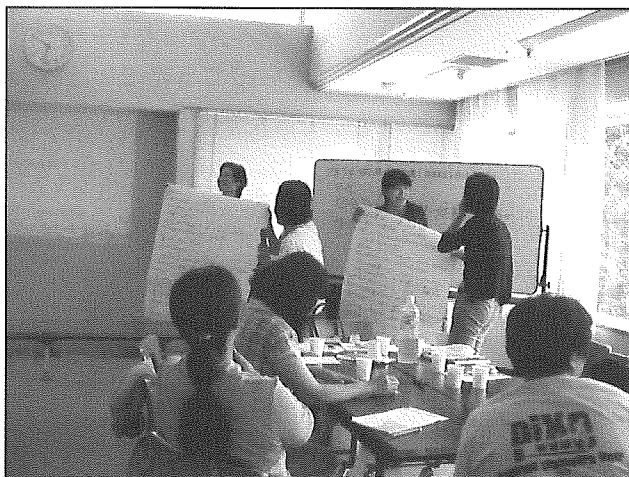
男女共同参画社会で、社会の大変さは男も女も変わらないし、試練の中で力を発揮していくわけですが、家庭の中ではそれぞれのやり方、役割分担も必要かもしれないということを考えさせていただきました。

家事分担を与えるという具体的な話も出てきています。心をこめて食事を作ることなど、すべて支えていくのは親の生き方なんですね。

きょうの話の中で、子どもにこうしたい、ああしたい、これを伝えていきたいということ、親が何かしていかないといけないという言葉が多く聞かれたことが、大変よかったと思います。

自分のことはあっさりできるけれども、人のことはなかなかできない。自分もいろいろ今まで失敗し、社会のルールの中で壁にぶつかったりしながら乗り越えてきたこと、またいつか乗り越えられるということ、子どもたちに伝えていくということです。

大事なことは何なのか、何をどう伝えていくのかということが、きょうの話の中で、お父さん、お母さんたちの頭の中や心の中にはあるのだということ、きょうわかっていただいたと思います。



## 【参加者感想】

- \* 有意義な時間を過ごせました。他人の意見をたくさん聞き、改めて考えることが何なのかわかった気がします。後半の講演もとてもわかりやすくよかったので、もっと時間を多くとってもよいかと思います。
- \* 子どもの年齢の違う方と話をする機会に恵まれたことを嬉しく思います。ただもともと答えの出ないテーマで深まりは感じられませんでした。一通り、すでに本や色々な場面で目にしたり耳にしていることで、具体性には欠けていると思います。反対説はなしに、というと議論は深まらないと思います。個人力をまとめていくことは大変ですが、お聞きして温度差を縮めていくことは必要だと思います。
- \* 本日のテーマ（2点） こういう話（テーマ）を話し合わなくてはならない時代になっていることを悲しく思います。本来なら家族で話し合える内容だと思います。家族内での会話を増やすことを心がけたいと思いました。
- \* 他校のお母さん方と情報の交換ができたことは良かったと思う。防犯といっても切り口が多すぎて、もう少しテーマを絞ってもよいのでは、と感じた。
- \* 「子どもに伝える大事なこと」という普段心構えとして思っていることをあらためて考えさせられました。これからも親として、子どもに背を見せられる生き方をしていきたいと思います。
- \* グループワークでは色々な意見が出て、なるほどと思うこともありましたが、最後の福島先生の話は、さすがというか、答えを出すのはむずかしいと思っていたのですが、明確な“自分が変わる、精神力をきたえる”という言葉に感動しました。常々自分でも、子どもに言う前にまず自分とと思ってきましたが、なかなか実行できないのが現状です。みんなが各々家庭でがんばらなければいけないと思います。
- \* 色々なお話を聞くことができました。勉強、反省、考えさせられることがたくさんあり、出席してよかったと思っています。
- \* 他校のお母様方といろいろな情報を話し合うことが出来て、とても良い機会でした。
- \* 大変、勉強になりました。わが身を振り返り、家庭に帰って一から生活習慣を見直していきたいと思います。

- \*親の責任の重大さを改めて感じました。日々の生活を見なおしていきたいと思います。
- \*とてもむずかしいテーマだと思いました。親全体で考えていかなければならないかなと思いました。一番小さな社会という家庭から、子ども達と接してゆくことの難しさがよくわかりました。これからも、いろいろ考えてゆきたいと思います。
- \*いろいろな意見が聞けて、とても参考になりました。家庭の中でできることを、自分なりに実行していきたいと思いました。
- \*いろいろな人と話し、とても参考になりました。これから自分ももうちょっとしっかりやって行きたいと思います。ありがとうございました。
- \*初めての方々とのグループワークでドキドキしましたが、同じ子どもを持つ親として話もはずみ、楽しく参加することができました。いろいろな意見を聞くこともできて、とても勉強になりました。今後家庭でも話し合っていけたらよいと思います。
- \*参考になる意見、再認識させられたこと等、有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。
- \*先生をはじめ、役員の皆様、準備等大変だったことと思います。いつもご苦労様です。改めて子ども達にできること、これまでの私自身の子育て等考えさせられました。初めてお会いした方々と意見を出し合うことで違った世界が開け、共感できることもたくさんあり、参加して良かったなあと思いました。
- \*親として改めて考えさせられました。今回の話を参考に、大切なことは何か、自分の考えをまとめていこうと思います。最近の子ども達の現状を聞いて、驚いたことばかりでした。
- \*子どもに伝えなくてはいけないこと、親として伝えること、すごく考えさせられることである。家庭の中で会話の大切さを感じます。子どもへの関心を持つことの大切さ、自分がまずできることから始めてみようと思います。きょうの勉強会はすごくよい会だったと思います。ありがとうございました。
- \*いろいろな親御さんの考え方、さまざまなお意見を聞きました。テーマが大きいので、これぞ正解というものが見つかりませんが、自分の考えを持って、ゆるがない、自分が子どもにやってほしくない、なってほしくないことはしないようにしようと、毎日頑

張っているつもりです。後ろ姿を見せていきたいと思います。私にとっての子育ては、自分が自分でかせいで食べて生きていける力を身につけさせることと考えていますので、それまでは一生懸命頑張ります。

\*本日はありがとうございました。大変ためになりました。自分自身を見直せました。今後もこのような学習会をお願い致します。

\*毎日何気なく生活していますが、きょうのお話をよく考えて、これからがんばって親としての役割を考えながら生活していきたいと思います。

\*命の尊厳とか、とても大きなテーマになったなと思います。具体的に明日から何をやったらいいかがすごく難しい。何を伝えていきたいかはとてもたくさんあるのだが、一人一人それをこれからの子どもに伝えていかない限り、その力はないと思うので、大事なのはちゃんと親が覚悟して実行していくことだと思います。親も今はいろいろなことで忙しいけど、責任は大きいと思います。

\*今更ながら、“家庭の大切さ”を実感しました。こういう形での進行は、子育て中のお母さん方の生の声を聴くことができてよかったです。

\*初めての参加でしたが、日頃忙しい中でどうしても大切なことを後回しにして過ごしていたことを改めて反省させられました。親がもっと成長していかないと駄目だなあーと感じました。学習会に参加してよかったです。ありがとうございました。

\*校区をバラバラにグループに入れたことによって、いろいろな知らない方の意見を聞くことができたのがよかったです。一人一人の親が子どもに向き合うことが大切ということが、よくわかりました。

\*皆様の意見、参考になりました。先生のお話も、日常生活を正しく見直すのが大事と言うことがわかりました。毎日の生活をもう一度見直したいと思います。

\*とてもとても楽しい時間でした。今まで知っている人達と話す機会があっても、立場の違い、子どもの年齢の違う方たちとディスカッションでき、教えられることの多さに驚きました。こういった機会がもっとあればいいなと思いました。今日は、企画・運営ありがとうございました。

\*たくさんの方の色々な意見が聞けて参考になりました。

\*家庭の有り方をもう一度考えることができました。親として、しっかり子どもに何が大切かを伝えていきたいと思います。

\*グループディスカッションに初めて参加させていただきました。井戸端会議のように、一人一人が気軽に意見が述べられ、参加しているという気持ちになりました。ふだん考えていることも話せました。学校代表で参加しましたが、いろいろな人が参加できるとよいと思います。最後の先生のお話もとても有意義でした。ふだんあまり目にしない資料もあり、とてもよかったです。

\*本日はとても有意義な時間を過ごさせていただきました。このようなお話、テーマは常日頃、私の頭の中だけでかわされている話でしたが、たくさんのお母さん方と皆で良い機会に参加させていただきました。



**第2回継続ワークショップ**  
**『私たちから子どもたちへ伝えていくこと』**  
**～コミュニケーション・エチュード～**

2005年7月11日 開催 於：中央公民館 会議室1 参加者26名  
コーディネーター 福島富士子（国立保健医療科学院）  
プログラム 福島富士子・務合理恵子・大谷賢治郎・澤麗子・待鳥美光  
主催 和光市地域子ども防犯ネット  
共催 厚生労働科学研究「少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究」研究班

ワークショップと同時に当日にアンケートを行った。アンケート用紙および結果についても添付した。

**【当日の記録】**

タイムテーブル

開始前 ～10:05 アンケート記入  
10:05～10:45 アイスブレイキング①  
10:45～11:35 コミュニケーションエチュード②  
11:35～11:50 ふりかえり③  
11:50～12:00 片付け、感想記入

- ①参加者は事前調査票の質問に回答を記入
- ②演劇的手法を用いたアイスブレイキング（ファシリテーター・大谷賢治郎）
- ③大きな円になって着席。ニックネームによる自己紹介、ゲーム
- ④コミュニケーション・エチュード・プログラム（ファシリテーター・福島富士子）
- ⑤大きな円で全員着席。振り返り。感想・意見交換
- ⑥感想記入

・・・①大谷・・・

大谷 「役者でせりふを述べるためには他者の存在を認知していないとできない。すてきな役者は相手のことが聞ける人だと思う」という導入の話。

まずは、部屋空間のなかで、話さずに歩きながら、すれちがった人と手をタッチする→肩タッチ→目を合わせる→しばらく目を合わせたまま などの体を使った表現を指示した。

一旦体を動かした後、またいすに座ってもらい、次は一人一人に野菜のニックネームをつけてもらい、

名前覚えゲームを行った。

一体感が出てきたところで、最後に、みんなでひとつのストーリーをつくりあげる遊びをした。無言のまま、ひとりの人を決めてみんなで囲んでいく。ほとんどの人が同一の人を志向していた。

・・・②福島・・・

コミュニケーションエチュード

## 「お父さん！お母さん！聴いてるの！？」

### 1. はじめに

「最近子どもが話をしてくれない」「子どもが何を考えているかわからない」という悩みを抱えている親が多い。思春期の子どもと話をするのは結構神経を使うものである。「もう少し聴き方が上手になるといいのに」と思うことがある。子どもに話して聴かせなくてはという思いが先にたって、子どもの話が聴けない。そこで、今日は「お父さん！お母さん！聴いてるの！？」と題して、上手な聴き方の練習を試みる。

### 2. 進め方

二人一組になって交代で2分お互いの話を聞く。何があっても2分間話し続けてください。聞き役、話し役を決める。(挙手させて話し手がちゃんと決まっているかを確認する)

1) 話し役は「最近あった出来事」について自由に語る。聴き役は「聞きたくない」という気持ちで聞く。聞き役と話し役を交代する。

聞き役が聞きたくないという気持ちで聞いたとき、どのように感じたか。話した側はどうか(最初は自由に言わせてみて、意見が出ないようなら指してみる。)

#### \*様子

「聞きたくない」にもかかわらず、うなずいて聞いてしまっている人が多かった。注意したものの、聞かないふりをするのが精一杯のようであった。つまり、わりと聞き上手な人が多かったのである。

#### \*感想

話す側がいやな気分になったかという質問に対し、7人くらいが挙手した。なかには、これは「シチュエーションを設定されているからめげずに話せた」という人もいた。

2) 聞き役は「聞こう」という気持ちを持って聴いてください。(相づちは打たない)

#### \*様子

全体の雰囲気明るくなった。

#### \*感想

「にこやかに話せた」、「話そうと思える」

3) 普段話をしていない人同士で新しいペアをつくり、聞き役、話し役を決める。話し役は「これまでの人生の中で頑張ったこと」について話す。聞き役は「理解しよう」という気持ちで聴き、会話に質問を交える。

発問：聞き役が「理解しよう」という気持ちになって聞いてくれた時、話し役はどのように感じたか。

予想回答) 安心して話せた。気持ちがよかった。拒否されない安心感があった。気が楽になった。相手が好きになった。相手にもっとわかってもらいたいと思った。

発問：もっと話していたかったと思う人は挙手してください。

予想回答) 全員挙手

\* 様子

みんな身振り手振りを交えながら話し込んでいた。なかなか話が止まないくらいとても盛り上がっていた。

\* 感想

もっと話していたかった人という質問に対し、7割近くの人が挙手した。感想としては「対話になった」、「楽しかった」があった。

#### ■待鳥&大谷の寸劇

このときの質問には2種類の質問が考えられる。注意をしてみてください。

A (息子) がキャンプから帰宅し、B (母親) との会話。

A：キャンプ楽しかったよ。

B：そう！

① どこのキャンプ場だったっけ？

この質問はBが知りたいことを質問している。

② 何が楽しかったの？

この質問はAが話したいことを質問している。

\* 感想

みていてどうだったかという質問に対し、「①は自分が聞きたいことを聞いている。自分もそうで、普段の会話の落とし穴だと思う。」「①は会話になっているようで息子の空回りだと思った。出鼻がくじかれる感じだった。②は話したくなる感じだった。」

\* 様子

感想を述べた後に、一回場が静かになったが、次のワークに入る前に、見つめあってにこりとしてみようという指示が入り、場の雰囲気はまた明るくなった。

4) 話し役は自分の夢について話す。聞き役は「受け止めよう」という気持ちで聴く。聞き役は絶対に批判しない。相手が話すことを盛り上げて引き出すようにする。(批判しないということは価値観の違いや多様性、意欲を引き出すポイントとなる。) さきのロールプレイを思い出しながらやってください。ここでは5分間ずつ話す時間を取った。

発問：聴いてもらってどう感じたか。

予想回答) 真剣に聞いてくれて嬉しかった。聞いてもらってありがたいと思った。何とかして実現したくなった。幸せな気持ちになった。漠然としたものが整理できた。

\* 様子

また楽しそうな雰囲気に戻り、みんな笑顔で話している。聞き手は正対して聞いている。

\* 感想

「質問自体は重かったけど、話しやすく気持ちよかった。一生懸命リードしてくれたから話がふくらんできた。人が何を考えているかを聞くのは好き。色々な人と会話できるのがいいなあ。」

発問：夢を何とかしてかなえてみたいなあという気持ちが起きた人は挙手してください。

予想回答) ほとんどの人が挙手する。

発問：どうしてみんなにそのような（やってみようかなという）気持ちが起こったのだろうか。

\* 感想

「聞いていただいた方に共感してもらったから自信がついた。」

○まとめ (福島)

皆、夢を叶えたいと思っているが、現実を見ると諦めざるを得ない。

しかし、このような聴き方で行動・認知が変化することがある。

大抵の人間は自分の世界で生きていて、「自分が聞いてもらいたい」という気持ちが強く、どうやったら自分が聞いてもらえるか常にチャンス（注目されたい気持ちがある）を狙っている。つまりお互い聴いていない。

相手が聞いてくれたら、自分も聞く。相手がしてくれたら、自分もそうする。相手が変われば自分もやろうかなという考えになる。相手を変えることは難しいので、まずは親である聞く耳を持っている自分が変わらないといけない。

あと2回くらいはこのワークショップをしていきたい。自分のおうちでもやってみてくださいね。家族のくせがつかめるようになります。

・・・③ふりかえり (大谷)・・・

・最初のアイスブレーキングで、目と目を合わせてじっとしているのはとても気恥ずかしかった。

・ワークショップの間、異次元に入ってしまったように感じ、日常を忘れていた。

・聞き手の対応でこんなに話す方の気持ちが違うということがわかり、今までの自分の対応を子ども